令和７（2025）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要

Ⅰ．調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和８（2026）年１月
対象施設：令和６（2024）年度看護学科・医療介護福祉学科卒業生就職先
調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート
回収結果

	対象施設		回収数	回収率
	施設数	件数		
看護学科	40	68	40	58.8%
医療介護福祉学科	12		14	100%

・対象施設：看護学科では１施設あたり複数部署に送る場合があるため、施設数と件数を示している
・回収数：看護学科は件数、医療介護福祉学科は施設数を示す。回収率も件数による一部施設に人事担当等と配属先等による重複回答があったため対象施設数より回収数が多くなっている。

Ⅱ．アンケート結果及び分析

１　施設基本事項（得られた回答数を示す）

1)地方・都府県別

地方	都府県	看護学科		医療介護福祉学科	
		地方別	都道府県別	地方別	都道府県別
関東地方	東京都	2	1		
	神奈川県		1		
近畿地方	兵庫県	4	4		
中国地方	岡山県	33	29	13	10
	広島県		4		3
四国地方	香川県	1		1	1
	愛媛県		1		

２　調査項目

Ａ　採用について

1）採用で重視する資質・能力

それぞれの項目について、５段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第２位で四捨五入）

項　　目	看護学科	医療介護福祉学科
共感力	4.7	4.3
誠実性	4.7	4.8
一般常識・マナー	4.5	4.4
対人関係構築力	4.5	4.1
情報伝達力	4.3	3.7

傾聴力	4.6	4.2
柔軟性	4.3	4.1
基礎学力	4.2	4.0
専門的知識・技能	4.6	3.9
論理的思考力	4.0	3.7
役割遂行力	4.3	3.9
責任感	4.7	4.3
倫理観	4.7	4.4
主体性	4.3	4.0
探究心	3.9	3.7
課題解決力	4.2	3.8
ストレスコントロール力	4.5	4.4
自己管理力	4.5	4.5

その他重視している事項（自由記述）
看護学科：回答数７件
・コミュニケーション力
・センスがある人
・チームワークが円滑に取れるか、協調性
・公務員となるので、サービス精神もあるかも確認
・自律心
・精神面が安定
・報連相ができる、また心がけている姿勢が伝わる。マナー必須、特に挨拶、言葉使い。向上心。
医療介護福祉学科：回答数４件
・向上心
・協調性
・コミュニケーション能力
・自己研鑽力

【分析】
採用時に重視する能力は、看護学科ではいずれの項目も 3.9～4.7、医療介護福祉学科では 3.7～4.8 であった。看護学科では「共感力」「誠実性」「責任感」「倫理観」が 4.7 と極めて高く、医療介護福祉学科では「誠実性」が 4.8、「自己管理力」が 4.5 と非常に高かった。一方、両学科共に他に比べて比較的低かった（4.0 未満）のは「探究心」で、医療介護福祉学科では「情報伝達力」「専門的知識・技能」「論理的思考力」「役割遂行力」「課題解決力」も低かった。全体的な傾向としては、「専門的知識・技能」「論理的思考力」などの知識や汎用的技能を有していること以上に、「責任感」や「倫理観」などの態度や人柄、対人援助職としての資質を身につけた人材が望まれていることがわかる。

2）面接で重視する事項（自由記述）
看護学科 13 件

・コミュニケーション・対話力： 5 施設：（コミュニケーション能力、質問に対し簡潔に、自分の言葉で、口調や態度）
・マナー・身だしなみ・印象： 3 施設：（身だしなみ、マナー対応、第一印象の明るさ）

・意欲・目標・学ぶ姿勢： 3施設：(目標を持っているか、学ぶ力、将来のキャリア)
・その他（不明・無回答)： 2施設：(教育担当で採用担当ではないため不明)

医療介護福祉学科７件

・質問に対しての受け答え（自分の言葉で伝えているか等)
・生活習慣や学習以外の社会性
・カルチャーフィットと定着力、安定性など
・当施設の組織風土にマッチしているかどうか
・人柄がよく、患者さまに寄り添える
・自分の考えを言葉にして回答できる
・ストレス解消法、学ぶ姿勢、当院で何をしたいか、達成課題にどう向き合うか、コミュニケーション力

【分析】

両学科とも、コミュニケーション力、情報伝達力(「自身の考えを伝えることができるか」「考えを伝える力」)、質問に対する答え方といった言語コミュニケーション、第一印象、態度、姿勢、表情、清潔感などの非言語コミュニケーションを重視する意見が多くを占めた。また、意欲・目標・学ぶ姿勢といった将来のキャリアに対する考え方についてや、職場への適合性や対人援助職者としての将来設計を重視する回答も見られた。

B　採用された本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について、５段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第２位で四捨五入）

項　　目	看護学科	医療介護福祉学科
共感力	3.2	3.8
誠実性	3.2	4.2
一般常識・マナー	3.0	3.7
対人関係構築力	3.1	3.6
情報伝達力	2.9	3.1
傾聴力	3.1	3.6
柔軟性	3.1	3.6
基礎学力	3.0	3.6
専門的知識・技能	3.0	3.4
論理的思考力	2.9	3.3
役割遂行力	3.0	3.7
責任感	3.1	3.9
倫理観	3.2	3.9
主体性	2.8	3.4
探究心	2.7	3.1
課題解決力	2.9	3.4
ストレスコントロール力	3.0	3.6
自己管理力	3.0	3.5

その他の印象（自由記述）
看護学科:10 件

・真面目・一生懸命: 3 施設：(真面目で一生懸命、明るく真面目、落ち着いて業務にあたっている)
・対人関係・印象: 2 施設：(第一印象は抜群に良く評判が良い、よく気が付き関係性良好)
・実務：1 施設：(きちんと報告ができる)
・主体性・協調性の欠如: 2 施設：(主体性が全くない、協調性に欠け改善傾向がない)
・コミュニケーション・適応: 1 施設：(コミュニケーションがとりにくい、周りが見えない、臨機応変に対応できない)
・マナー: 1 施設：(社会人としての言葉遣いは指導が必要)

医療介護福祉学科 4 件

・非常に安定感があり、先輩職員の信頼も厚い
・安定した業務遂行ができている。現場スタッフとの協調性もある。
・真面目で思慮深い
・メンバーとのコミュニケーションには欠けるが患者とは取れている。新しいことの柔軟性はある。

【分析】

本学の卒業生の印象として、平均値が 4.0 を超えた項目は医療介護福祉学科の「誠実性」の 1 項目のみであり、両学科ともに他の項目は、4.0 以上の評価は見られず、従来以上に厳しい評価となった。その中でも 3.6 以上の比較的高い評価を得た項目は、看護学科では該当項目はなかった。医療介護福祉学科では「共感力」「一般常識・マナー」「対人関係構築力」「傾聴力」「柔軟性」「基礎学力」「役割遂行力」「責任感」「倫理観」「ストレスコントロール力」であった。一方、3.0 未満と評価が低かった項目は、看護学科では「情報伝達力」「論理的思考力」「主体性」「探究心」「課題解決力」であった。医療介護福祉学科では、3.0 未満の項目はなかった。これらの項目では、他の項目に比べ「やや劣る」の割合が高い。「劣る」という評価のあった項目は、医療介護福祉学科にあった。多くの卒業生は「普通」以上の評価を得ているものと思われるが、わずかな人数でも「やや劣る」の評価を受ける卒業生がいると、そのことが本学に対する評価を下げる可能性がある。個人の資質・能力によるところもあると思われるが、今回評価の低かった項目は後述するディプロマ・ポリシーの能力（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）とも関連することから、大学全体で学生のこれらの能力を伸ばす工夫が必要である。「その他の印象」として自由記述に回答された評価は良いものが多かったが、主体性や協調性の欠如についての指摘もあった。

2)-1 ディプロマ・ポリシー（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）に対する看護学科卒業生が身につけている能力の割合

それぞれの項目について、5 段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値（小数点第 2 位で四捨五入）及び各得点（5 段階）の件数を示した。

項　　目	平均値	5	4	3	2	1
①看護の現場で必要とされる看護技術の水準に到達している。	2.9	0	3	29	7	0
②根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	2.7	0	2	23	13	1

③主体的に看護を探究する態度を身につけている。	2.5	0	2	20	14	3
④他職種と連携・協働する能力を有している。	2.8	0	4	24	9	2
⑤医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を備えている。	2.7	0	6	21	9	2

【分析】

いずれの項目も平均して約６割程度の施設が 3：普通という評価をしていた。平均値でみた分析では、①看護技術はおおむね修得（平均 2.9、普通 74.4%）しており、今後は技術の質改善と応用が課題である。②根拠に基づく実践能力（平均 2.7、普通 59.0%）と③看護を探究する態度（平均 2.5、普通 51.3%）では、今後も主体性やエビデンス運用の定着に対する教育の強化をしていく必要がある。本学卒業生の印象（探究心・主体性・課題解決力・論理的思考力）とも整合し、自己探究型の学修と、根拠に基づく実践を強化する教育改善が必要である。

2)-2 ディプロマ・ポリシー（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）に対する医療介護福祉学科卒業生が身につけている能力の割合

それぞれの項目について、５段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値（小数点第２位で四捨五入）及び各得点（5 段階）の件数を示した。

項　　目	平均値	5	4	3	2	1
①生活支援が必要な人への介護実践能力を身につけている。	3.7	2	6	6	0	0
②医療介護福祉の専門知識を持ち根拠を明確にした介護ができる。	3.6	1	7	6	0	0
③豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる。	3.6	2	6	4	2	0
④医療介護福祉の意義を理解し、人権擁護意識と職業倫理観を身につけている。	3.6	2	4	8	0	0

【分析】

ディプロマ・ポリシー①～④に対する評価点は 3.6～3.7 であり、達成度評価において「優れている」「やや優れている」「普通」との回答がほとんどであり、卒業生はこれらの能力を修得できているものと思われる。ただし、ディプロマ・ポリシー③では「やや劣る」という回答が２施設（14.3%）であったことから、「豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる」という能力に関しては、十分に身についていない卒業生がいるものと考えられる。同職種や多職種への発信力を強化することがチームケアにつながると考えられる。

3）本学卒業生を採用したことの総合的満足度

５段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらともいえない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第２位で四捨五入）

本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	看護学科	医療介護福祉学科
	3.9	4.7

4）採用した学生について気づいた点（自由記述）

看護学科：６件

・アルバイト経験者は馴染みやすいようです
・学校教育だけの影響ではなく、個人のキャラクターも大きいと感じる。

・健康管理をしながら、日々、実践力を身につけられるよう頑張っています。個人差がありますが、夜勤も支援を受けながら頑張っています。
・就職して社会人基礎力も向上した
・日々、一生懸命頑張っておられます。必ず成長されると期待しております。

医療介護福祉学科：７件

・根気強く頑張っている。
・コツコツと前向きに取り組んでおり、好感が持てる。今後、積極的に行動出来るとさらに良い。
・素直で謙虚で柔軟性があり対人の仕事に合っている。真面目にコツコツと業務を覚えながら患者との関わりを楽しみながら大切にしている。
・教員が施設より病院を進めてくれたと本人が話していました。何か基準があるのか気になっていました。１人の患者と丁寧に関わる力があると感じます。
・とてもよい学生さんたちでした。是非今後も応募していただきたいです。
・特にありません。長く働いてほしいと思っています。
・周りに振り回されない。話しをしたら自分の意見を伝えられる。また、相手の意見も聞く姿勢がある。人のことは言わない。今後の成長が楽しみであり、期待しています。

【3)4)の分析】

本学の卒業生を採用したことに対する総合的満足度は、看護学科では 3.9 で、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は 64%であった。医療介護福祉学科は 4.7 で、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は 100%であった。

採用した卒業生について気づいた点には、看護学科では本学の指導に対する良い評価につながるものが多かった一方で、個人の資質に関する指摘などもあった。大規模病院が求める高い要求水準に対し、一部の卒業生が「指示待ち」の姿勢から脱却できていないことが不満の要因となっている。今後は、強みである誠実さを維持しつつ、臨床現場で不可欠な論理的思考力や、自ら課題を見つけ出す主体性、及び文章力を含む基本的なコミュニケーション能力のさらなる強化が急務である。

医療介護福祉学科では、達成度評価において「普通」との回答が一定数存在するにもかかわらず、最終的な満足度が極めて高い背景には、卒業生の「誠実な態度」や「患者・利用者への丁寧な関わり」といった人間性の育成の面が現場から厚い信頼を得ている事実がある。今後は、現場のニーズが高い「法令理解」や「課題解決力」といった専門的スキルの底上げを図ることが、さらなる教育成果の向上につながると考えられる。

5) 本学学生に充実を求める能力など本学に対する意見、要望（自由記述）

看護学科：６件

・コミュニケーション力は必要です。バイトや野外活動など社会経験も必要と考えています。引き続きよろしくお願い致します。
・看護教育にご尽力いただきありがとうございます。貴校に関わらず、学生の時の基礎知識やものの見方、考え方、創造力などについては強化願いたい点です。技術は経験を積めば習得できます。送り出していただいた学生を、臨床の場で育成することが役割だと考えております。卒業生を大切に育てて参ります。
・今後ともよろしくお願いします。

・最近の新人看護師の傾向としてコミュニケーション力、文章力などに躓き、悩む者が多い現状があります。基礎教育の中でこれらの能力を意識的に高め修得できると、入職後の適応や学習する上においても重要な力になると思います。また自身の考えを整理して伝える力も重要と考えます。
・採用対象者はとても優れています。今後も、社会人基礎力は身に付けた状態を望みます。
・社会人マナーについて、習得の強化をしていただけると良いと思いました。

医療介護福祉学科：４件

・今後ともよろしくお願いします
・在学中においても様々な経験をもとに見聞を広め、自己成長につながる機会を作って頂けると幸いです。
・実習等で大変お世話になっております。施設で働きたいと思える施設運営・入居者支援等をしていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。
・対話力、基礎学力、問題解決法、社会人マナー、ストレス解消法が必要と思います。法令内容は、しっかり理解して現場に入ると自己も患者も守れることも必須にしたいと思います。採用も継続中ですので、お願いしたいです。

【分析】

多様な意見が寄せられたが、受け入れた卒業生への期待には「積極性を持つこと」「対話力、基礎学力、問題解決法、社会人マナー、ストレス解消法が必要」があった。一方、本学の教育に対する要望として「在学中においても様々な経験をもとに見聞を広め、自己成長につながる機会を作って頂きたい」と寄せられていた。

今後の課題

１　大学としての課題と対策

令和６（2024）年度卒業生の就職先（病院・介護施設）の人事担当者もしくは上司に依頼して、本学の教育がそれぞれの専門職組織が求めている人材育成になり得ているかどうかについて、評価とご意見をいただいた。採用先からの評価やご意見を本学の教育改善に反映させることが目的である。

アンケートの回収率は看護学科 58.8%、医療介護福祉学科 100%であった。

その結果、総合的満足度（1～5 の５段階評価）の平均値は看護学科 3.9（昨年度 4.2)、医療介護福祉学科 4.7（昨年度 4.1）で、看護学科は満足度が低下し、医療介護福祉学科では、満足度が大きく上昇していた。アンケート結果の分析を通して、誠実という特長を伸ばすとともに、主体性、探究心、コミュニケーション力や協調性といった対人関係構築力の涵養を目指した能動的学修の充実に努める必要があることが示唆された。

今回の調査結果を受け、就職活動支援講座を低学年から「コミュニケーション講座」の取入れにより日頃からのコミュニケーションを意識付けることから始め、講義や演習・実習、ホームルームでの担任の集団指導・個別指導などにおいて、対人関係構築力を育成する教育を繰り返し行っていく必要がある。特に臨地実習は、学生の主体性が求められ、コミュニケーション力や協調性、探究心を伸長させる重要な機会となり得る。入学時から３年間の学生生活をとおして、将来の職場が病院や介護施設であるという意識付けを強化し、学びと社会性に対する動機付けを図りながら、専門職に対する自身の考えを構築できる学生を大学と

学科が連携し育てていく必要がある。また、学生が自身の性格や特性に合った病院選びができるよう個別支援対策を強化していきたい。

２　学科の課題と対策

1）看護学科

採用側は誠実性、一般常識・マナー、対人関係構築力、ストレスコントロール力、自己管理力を高く重視しており、このような社会人基礎力は本学学生の強みとして一定の評価が得られている。一方で卒業生の印象では「主体性」「コミュニケーションの質」に改善余地がみられ、ディプロマ・ポリシー到達度においては①看護技術はおおむね到達（平均 2.9）しているが、②根拠に基づく実践能力（平均 2.7）と③主体的に看護を探究する態度（平均 2.5）が相対的に低い結果となっている。

これらの結果から、学科の課題は「自ら問いを立てて根拠を探し、実践に結びつける力」と、加えて「コミュニケーション力や社会人マナーの質の向上」であると考えられる。新カリキュラムでは、「看護フィールドワーク論」や「看護研究」等の主体性を育成する科目を導入したものの、今回の調査では主体性や探究心の評価は十分に改善しておらず、さらなる取組が必要とされている。

対策としては、まず主体性や探究態度の行動化を図るために、課題解決型学習（PBL）の拡充が必要である。また、リフレクションにより、学修の自律性を高めることも重要である。さらに、シミュレーション学習において、「根拠を用いることが必要な症例」を取り入れるなどを検討する。加えて、SBAR などを用いた報連相、低学年からの挨拶・言葉づかいに対する指導を実施し、採用側が重視するコミュニケーション能力・社会人基礎力の向上を図る必要がある。

2）医療介護福祉学科

医療介護福祉学科の卒業生の印象としては、「誠実性」「責任感」「倫理観」「共感力」など人間性の基礎に関わる項目で高い評価が得られた。また、ディプロマ・ポリシーに対する評価もいずれも 3.6～3.7 と高く、回答の多くが「優れている」「やや優れている」「普通」であったことから、卒業生は本学科の教育目標に沿った能力を概ね修得していると考えられる。ただし、「豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる」については２施設（14.3%）から「やや劣る」との評価があった。卒業生の印象でも「情報伝達力」「探究心」がやや低く、自由記述にも「メンバーとのコミュニケーションには欠けるが、患者とは（コミュニケーションが）取れている」という意見が見られた。これらの結果から、学生一人ひとりに応じた指導、教育の必要性が改めて認識された。今後は、実習事例報告会やグループワークを通じて同職種や多職種への発信力の強化や自ら課題を見つけて取り組む探究心の育成にも注力する必要がある。また、昨年度は卒後３か月にミニ同窓会を実施し、同期同士で悩みを共有する機会を設けた。出席率も高く、特に深刻な悩みを抱える様子は見られなかったが、顔を合わせることで安心感につながる有意義な取組であったと考える。

最後に卒業生採用に対する総合的満足度は 4.7 と高く、今後も就職先との連携を継続し、卒業生のサポートを行うとともに、一人ひとりに寄り添った就職支援を継続していきたい。